

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

新規就業者対象の座学研修を開講

－9月12日(火) 津・水産会館－

9月12日(火)、津市の水産会館に於いて、三重県漁業の担い手対策協議会が主催する新規漁業就業者育成コースの座学研修の開講式があり、平成30年2月まで月1回～2回のペースで全7日間の行程がスタートした。

開講式では、三重県林水産部 永濱次長から挨拶を頂き、続いて、三重県漁連の服部常務理事より参加者の研修生に激励のメッセージが送られた。その後臨席していただいた水産関係団体や県農林水産部の関係者の紹介があり、最後に、北は鈴鹿市から南は熊野市にまたがる研修生4名が自己紹介とそれぞれの決意を述べて開講式を終了した。

その後、①「三重の漁業」(講師：県水産資源・経営課 水谷主査)、②「漁協組織」(講師：三重県漁連指導部 植地部長)、③「海洋気象」(講師：津地方気象台 大橋調査官)、④「津波対策」「ライフジャケットの役割」(講師：四日市海上保安部 警備救難課 西村専門官、同交通課 吉田安全対策係長)等の講義がなされた。

参加者らは、普段は教わらないような内容ということもあり、真剣な表情でメモを取りながら熱心に聞き入っていた。



天気図の読み方



ライフジャケットの役割

漁青連 関東・東海・北陸ブロック会議

－9月12日(火)～13日(水) 富山市－

9月12日(火)、富山県富山市「富山第一ホテル」に於いて、各県漁青連等青壮年組織グループ相互の連絡と各種情報意見交換を行うことを目的に全国漁青連 平成29年度 関東・東海・北陸ブロック会議が開催された。

今回は、富山県37名、石川県6名、福井県2名、静岡県5名、愛知県4名、三重県2名の計56名(講師、来賓除く)の会員が出席。

初めに、富山県漁青連 野口会長の挨拶で開会し、続いて、同県農林水産部水産漁港課 津田課長及び富山県漁連の谷専務理事の来賓挨拶。その後、同県農林水産部水産漁港課経営係 大津主幹が、「とやまの魚ブランド化の取組と課題」を。続いて、同水産漁港課 振興係 飯田主任が、「夢のノドグロ資源の増大に挑む！～富山県の取組について～」の講演があり、その後意見交換が行われ、盛況のうちに閉会となった。



ブロック会議の会場



富山県漁青連 役員

漁村青年交流会 in 三重大学
—9月23日(土)津・三重大学—

9月23日(土)、三重県漁青連初の産学連携の試みとして、津市三重大学・地域イノベーションホールに於いて「漁村青年交流会 in 三重大学」が開催された。県内各地の漁青連のメンバーや三重県、県内漁協関係者、三重県漁連等の水産関係団体、三重大学からは、主に生物資源学部の先生方、学生達が出席し、盛大に開催された。

第1部のシンポジウムでは、初めに、三重県海水養魚協議会の橋本会長の挨拶で開会し、続いて三重県漁連指導部職員による「三重県の漁業概要」についての講演。その後、漁村若手リーダーによる活動紹介として、

①赤須賀漁協青壮年研究会による「減少したハマグリ復活等」について。

②鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部による「海の森づくりとして、アラメ場の再生活動」について。

③鳥羽磯部漁協菅島支所青壮年部による「放流増殖事業としてアワビや稚魚の放流等」について。

④三重県海水養魚協議会による「伊勢まだいの取組み」が紹介された。

その後、三重大学からは、①生物資源学研究科 海洋個体群動態学研究室 金

岩准教授による「太平洋クロマグロを例とした管理方策とその決定過程」を。続いて、②同研究科 海洋生態学研究室 木村准教授による「水産業に与える外来生物の影響」が講演され、第1部のシンポジウムが閉会となった。

その後、第2部では、各漁青連より赤須賀のハマグリ、菅島のアカモク、海水養魚協議会より伊勢まだい、三重外湾漁協より鯖一ガー(サバーガー)が持ち込まれ、その他にも伊勢まぐろや伊勢えび、伊勢あさくさ海苔、青さのり他の試食会と意見交換会が開かれ、盛況のうちに閉会となった。



三重県海水養魚協議会 橋本会長の挨拶



鳥羽磯部漁協 浜口氏



試食品の数々

【主な予定】

○9月28日(木)

・おさかな料理コンクール三重大会(津)

○10月14日(土)

・鳥羽伊勢地区海難救助訓練(松阪)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。